



セントラル



個別分散



地中熱

宮城県
南三陸町

南三陸町

贈呈
理由

地中熱ヒートポンプシステムの活用により、 環境に優しいエネルギーの地産地消を実現



南三陸町役場庁舎

森里海人 いのちめぐるまち南三陸

宮城県の北東部に位置する南三陸町(人口12,564人:2020年3月末現在)は、東を南三陸国定公園の海に、他の三方を標高300~500mの山に囲まれた、海山が一体となった「森里海人いのちめぐるまち南三陸」という豊かな自然環境に恵まれた町である。

南三陸町は、2011年3月11日の東日本大震災により甚大な被害を受け、その未曾有の体験の中で学んだことのひとつが、「人々の活動の基となるエネルギー源をすべて他所に頼ってはいけない」ということであった。

エネルギーの地産地消を 目指した新庁舎を建設

その教訓のもと、新庁舎はエネルギーの地産地消を目指すということを念頭に建設され、地中熱や太陽光、木質ペレットなどさまざまな再生可能エネルギーを採用。特に、今まで未利用

であった地中熱を冷暖房設備の熱源に採用し、地球温暖化防止へ貢献するとともに、ランニングコストの低減など省エネルギー・省コストも実現した。

また、南三陸町は、大規模自然災害被災地として適切な森林管理の国際認証であるFSC(R)と、養殖水産物に対するエコラベルの国際認証であるASCを同時に取得した世界最初の町で、南三陸町新庁舎も公共施設としては、国内初となる「FSC(R)全体プロジェクト認証」を取得した。屋根を支える梁、床や壁の下地材、天井などの仕上げ材や家具など南三陸杉をふんだんに使用し、新庁舎で使用されている93%の木材が、認証を取得した

南三陸杉で占められている。

南三陸町は、この新庁舎を町の森林産業のショールームとして活用するとともに、宮城県における地中熱利用の先進事例として、今後の地中熱利用の普及・促進のための一助になればと考えている。



地中熱ヒートポンプ



地中熱交換器設置

南三陸町役場庁舎

所在地:宮城県南三陸町志津川字沼田101
建築設計:株式会社久米設計
建築施工:株式会社榎高組
設備設計:株式会社久米設計
設備施工:ミサワ環境技術(株)(地中熱設備)
延床面積:3,773㎡
竣工:2017年新設

■設備概要

地中熱ヒートポンプシステム159.6kW×1台
(日本熱源システム)
ビル用マルチエアコン40kW×2台、56kW×3台
パッケージエアコン28kW×1台、41.2kW×1台、
50kW×1台(ダイキン工業)